

## 第 18 回知床五湖登録引率者審査部会議事概要

日時：平成 25 年 11 月 8 日 15：00～17：30

場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

出席：松永(環境省)、岡田・高橋(斜里町)、梅嶋(オホーツク総合振興局)、梅沢(ウトロ自治会)、  
西原(ガイド協議会)、若月・岩山(引率者代表)、寺山(エコツアー推進協)、青木(自然公園財団)、葛西・秋葉・能勢・佐藤(知床財団)

## &lt;概要&gt;

ヒグマ活動期における地上遊歩道の同時滞在数を撤廃し、上限数を 300 名→500 名、小ループを追加するとした利用適正化計画の改定案が提示された。大ループの提供機会や質を維持し、小ループの導入は補足的に行うという認識が共有されたうえで、今後の段階的な運用も見据えて、変更計画は、ある程度の幅を持たせた書きぶりとし、実際の運用は、事務運営や体制等をふまえて、審査部会で具体的に検討することで合意し、協議会に提案することとなった。

登録引率者登録試験の結果（受験者 6 名中 5 名が合格）を受け、試験制度全体について協議。今回合格した新規引率者の一部は条件付き合格とする方針となった。

また、知床五湖の現場運用にあたり登録引率者と指定認定機関から共同提案を受け、情報発信や園内整備について議論した。

## (1) 知床五湖利用調整地区 利用適正化計画の改定について（●：主な意見、✓：決定事項）

## 2 ルート併用について

- 同じ時間に 2 ルート同時出発については、五湖FHの円滑な運営が担保できない可能性がある。
- 試験的な運用も含め、将来的な選択肢の可能性として、制度的なバッファーを残した計画の書きぶりはあり得る。
- 小ループを実施するために大ループの枠を減らすことは避けたい。小ループは、人気枠からあふれた利用者の受け皿となり、大ループのようなトイレの心配もない。混雑する時期や時間を外して限定的に設定すれば、ルート上でツアーが重なり混雑感が増えることもない。
- 小ループのツアー代金が高ければ、協議会で指摘されている社会的弱者の受け皿という期待に対して、マイナスになる恐れがある。代金は営業判断ではあるが慎重に検討してほしい。
- 小ループで 2 湖展望地を利用する場合、ヒグマを人で挟んでしまう可能性があり、リスクは増加する。ヒグマ活動期においては、ヒグマ対策上は一方通行が望ましい。その上で、ガイドが連絡を取り合って、ガイドがリスクをとるという整理はあり得る。
- 現行の大ループ最終ツアー出発後に、小ループツアーの追加設定が可能ではないか。
- 利用適正計画に 1 日の上限数が表記してあれば時間あたりの上限数表記は不要ではないか。
- ✓ 既存利用（大ループ）の質や提供機会を維持し、小ループを補足的に導入する。
- ✓ 予約時の混乱を防ぐ等を目的として、小ループの運用は、まずは当日予約のみに限る。
- ✓ 今後の段階的な運用も見据えて、変更計画は、ある程度の幅を持たせた書きぶり（提案通りの 500 人／日、77 人／時）とし、実際の運用は、事務運営や体制等をふまえて、審査部

会で検討する。

- ✓ 2 湖展望台の利用についても、計画上はできうるものとして、検証しながら進める。

#### 追い越しについて

- 追い越しに関しては、ツアー現場の臨機応変さに任せるべき。
- 利用適正化計画に記述はない。運用上のルールなので、ガイド間の合意があれば変更は可能
- ✓ 追い越しは原則禁止とし、事例の蓄積・意見交換をふまえて、ケースバイケースの判断を行って運用する。

### (2) 平成 25 年度登録試験について (●：主な意見、✓：決定事項)

- 合格者の最低点と不合格者の点差は 2 点のみだが、不合格者はヒグマ遭遇後の対応に不安感があり、慣れていない。合格者よりも利用者への的確な誘導能力が少なく、点差以上に可否の開きは大きい。引率者は、頭で覚える事より実際に人と集まってトレーニングが必要。
- 現行の試験制度でも、合格者は最低限のヒグマ対処が可能と判断できる。ただ、ヒグマ遭遇や引率等の経験不足は否めず、新規の登録引率者のリスク管理能力を担保するためのフォローアップを考えるべき。例えば、実地試験で 90 点未満は、来年度も無条件で実地試験を受ける必要があるなど。
- 本来、ガイド技術・統率技術は、自己研鑽によって向上させるもの。ガイド協議会などが音頭を取るなどして、ガイド側自らによる研修等も検討するべき。一方で、ヒグマリスク管理に通じる部分もあるので、最低限の範囲で仕組みとしても担保していきたい。
- 制度導入から 3 年が経過し、既存の登録者間にも技術の差が出てきている。新規登録引率者だけでなく、既存の引率者にも研修は必要。
- 試験に強く、現場に弱いガイドになるのは避けるべき。ヒグマ遭遇時の対応は場数がものを言う。そういうインターン研修的な機会は必要。その際の立入認定手数料は無料である事が望ましい。
- ✓ 合格通知は、付帯事項を伴った条件付きの合格とし、フォローアップの研修・試験等の内容について、次回以降の審査部会で検討することとなった（インターン研修や来年度試験の必修等が案）。

### (3) 登録引率者と指定認定機関からの共同提案について (●：主な意見、✓：決定事項)

#### 情報発信に関して

- 制度普及のための情報周知が最も重要。旅行会社への周知は一段落しているので、レク得キャンペーンのような取り組みをガイドブックに取り上げてもらう提案など有効では。
- 旅行関係者だけでなく、スタッフが毎年変わる一般や地元ホテルへの周知も改めて必要。利用適正化計画が変更した時点で、地元ホテルへの説明会等を実施すべき。
- ツアー枠の仮押さえ・空予約を防ぐために、予約システムに全予約者の名前と団体名(10 名以上である場合)の入力を必須とする修正が必要。
- 予約者の 1 人目が希望する条件のガイドを見つけるマッチング作業に難あり、改良が必要。

- ✓ 予約システムについては、できる限りの修正対応を行う。
- ✓ 新しい五湖の利用方法について、地元ホテル等への説明会の実施を検討する。

#### 園内の整備について

- 地上遊歩道内の整備不足等により、けが人が出る可能性もある。踏みぬきの穴がある第 4 湖付近の橋の修繕を強く希望する。
- 北海道としては、地上遊歩道の修繕はコンパネによるメンテナンス程度が限界。再整備を実施する場合は新規設備を作る方針はなく、橋などが危険な場合は閉鎖するしかない。環境省直轄（道は施工委任）での整備・管理を希望。
- ヒグマ活動期のルート後半にトイレブース（テントブース）の設置を要望する。
- 使用済みの携帯トイレは一般ゴミでもあるので、ガイド事業所が持ち帰ることが望ましい。
- 以前、高架木道にエゾシカが侵入したことがあった。高架木道にヒグマが入らないよう、入った形跡が分かるように、夜間ゲートの設置を検討すべき。
- ✓ 整備主体（環境省、北海道）で話し合ったうえで、対応を検討する。

#### 次回・今後の予定

具体的な利用適正化計画の改正案を詰め、12 月上旬開催予定の知床五湖あり方協議会(第 31 回)において、当部会の議論結果を報告。改定内容については、年内の妥結を目指す。